

中学校国語 A (主として「知識」に関する問題)

平成30年度
全国学力・学習状況調査

問題の趣旨

国語に関する学習内容のうち、これからの学習や生活をする上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力について調べる問題です。漢字、言葉の意味や使い方、分かりやすい文章の書き方、文章の読み取りなどの問題が出題されています。

全体の正答率

* 平均正答率とは、ひとりひとりの児童生徒の正答率(全設問のうち何%の設問に正答したか)を平均したものです。

平均正答率は全国と比較して
1.3ポイント上回っています

《平均正答率(%)》

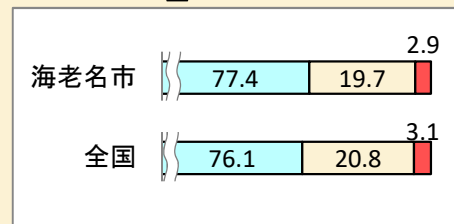
	海老名市	神奈川県	全国	全国との比較
国語A	77.4	76.0	76.1	+1.3

誤答の様子は…

分布の様子は…

《誤答の内訳(%)》

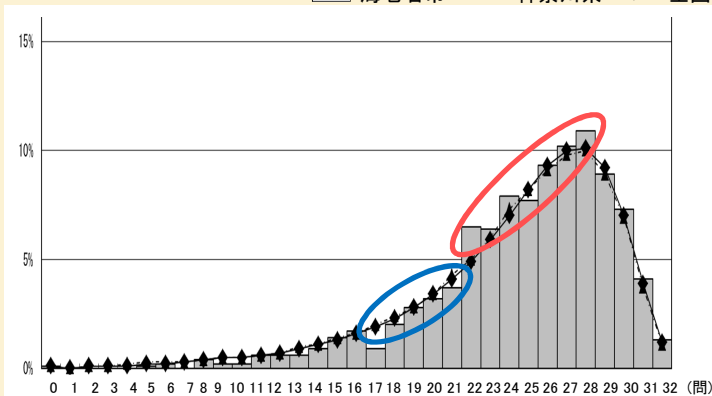
■ 正答 □ 誤答(書いたが不正解だった)
■ 無解答(何も書かなかった)



無解答率(何も書かなかった)は2.9%でした。

《正答数による分布》

■ 海老名市 ▲ 神奈川県 ◆ 全国



全国と比較すると
正答数が22~28問の生徒が多く
17~21問の生徒が少ないこと
が傾向としてわかります

* 正答率50%以下(0~16問)の生徒の割合は7.0%でした。(全国は8.7%)

* 正答率80%以上(26~32問)の生徒の割合は52.0%でした。(全国は50.7%)

領域別の正答率

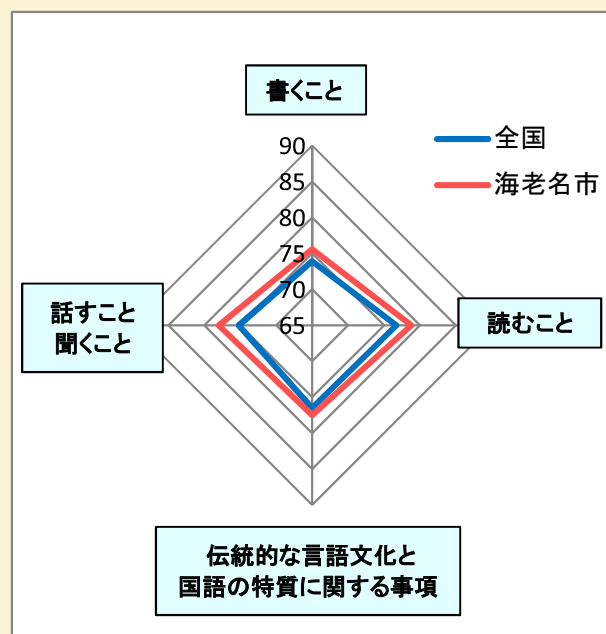
全ての領域において全国と比較して上回っています

《平均正答率(%)》

	海老名市	全国	全国との比較
話すこと・聞くこと	78.0	75.2	+2.8
書くこと	75.6	73.9	+1.7
読むこと	78.8	76.7	+2.1
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.5	76.5	+1.0

* どの領域も1.0ポイント以上、上回っていました。

* 特に「話すこと・聞くこと」については、2.8ポイント上回っていました。



内容について

* ()内は、平均正答率の全国との比較

全国を上回った設問	○ 毛筆の作品への助言として適切なものを選ぶ。(+10.0)	全国を下回った設問	○ 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す。(とほさざるなし)(-6.5)
	○ 意見文の段落の内容を入れ替えて書き直す理由として適切なものを選ぶ。(+3.4)		○ 漢字を書く。(先制点をユルす。)(-2.9)
	○ 話し合いメモのとり方の説明として適切なものを選ぶ。(+3.4)		○ 正しい文章になるように、適切な語句を選ぶ。(わたしが健康になったのは、『ひとえに』母のおかげです。)(-3.0)

国語Aで平均正答率が全国を下回った設問の例

歴史的仮名遣いを現代的仮名遣いに直す設問 (全国との比較-6.5)

中国の『韓非子』にある話の一部を読んで、—— 線部を現代仮名遣いに直し、全てひらがなで書きなさい。

……。またその矛をほめてはいはく、「わが矛の利きこと、物においてとほさざるなし。」と。ある人……

正答 とおさざるなし

正しい文章になるように、適切な語句を選ぶ設問 (全国との比較-3.0)

次の文の()の中に入る語句は、1～4のうち、どれが最も適切ですか。

『わたしが健康になったのは、()母のおかげです。』

1 ひとえに 2 ほのかに 3 いちずに 4 おやみに

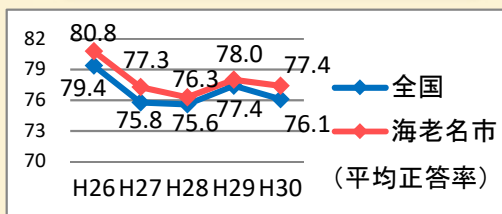
正答 1

☆国語Aのすべての設問は、国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

考 察

- ◆ 全国と比べて、正答数が22～28問の生徒が多く、17～21問の生徒が少ない傾向があることから、基礎的な力はおおむね身につけている。
- ◆ 話し合いの中で話題の方向性をとらえたり的確に話したりすることについては、全国と比べて平均正答率が高く、教育活動全般での取組の成果がうかがわれる。
- ◆ 言語事項の領域については、漢字の習得に改善の傾向が見られるものの、歴史的仮名遣いの理解や語彙の習得に課題が見られることから、引き続き指導の工夫が求められる。

これまでとの比較



◆ 5年間とも全国を上回っており、平成30年度は平成28年度以降で最も全国を上回っている。

◆ 平成26年、平成27年、平成30年は全領域において、全国を上回っている。

指導の改善にむけて

- ◆ 「語感を磨き語彙を豊かにする」ために
 - 各教科等の学習や生活の様々な場面で出合った「気になる言葉」や「使いたいと思った言葉」などを継続的に書き留めるよう指導する。
 - 「どのような言葉を書いたのか」や「実際にどのように使ったのか」について、お互いに話し合う活動を取り入れる。